

もしあえて合併のネガティブ・チェックをするのであれば、それはやはり会費の値上げというになるのでしょうか。新会費の8,000円は旧日本鞘翅学会からは1,000円、旧日本甲虫学会からは3,000円の割高となります。ただし両学会に共通して入会されていた会員にとって合併により会費負担は5,000円下がるという点は強調させていただきたいと思います。それでも、旧日本甲虫学会のみに入会されていた会員にとっては、やはり負担増は避けがたい。しかしこれまで述べてきたように、会員サービスは大きく拡充されると言う点をご理解いただき、引き続き私たちの仲間としてご登録いただくことをなにとぞお願い申し上げます。繰り返しになりますが、会費に見合う以上の会員サービスを提供していくことは最優先の使命であり、それを肝に銘じて学会運営の舵取りをしていく決意しております。

このような学会の運営と事業が順調に進むその先には、国際的に高く評価を受ける日本甲虫学会としてその地位を不動のものにするべく、会のさらなる発展を実現していかなければなりません。当学会は現在においてもすでにアジア最大の甲虫関連学会であることに違いはありませんが、経済的にも文化的にも台頭する中国を初めとする近隣諸国でも早晩のうちに類似の団体が設立され、その急速な隆盛も予測されます。そのようななか、アジアを中心とする諸外国の甲虫学研究者とも高いコミュニケーションを保ちつつ、従来の活動の延長線上からさらに一段高いレベルの活動展開を模索していく必要があります。またそれは国内外からも強く期待されているものと信じています。目標は高く超えなければならないハードルも低くありませんが、当学会が引き続き高い求心力を持続できるように、会員ひとり一人の力を合わせて邁進していきたいと考えております。

昨年夏に会長を拝命したものの、俗に言う名誉職という意識をもてる余裕などは微塵もなく、その年の後半を一気に駆け抜けてきたというのが正直な今の気持ちです。おそらく2年ある任期も、同じように気が抜けない日々が待ち受けているであろうと覚悟しております。そして学会合併の真価が試されるのは、待ったなしでこの2011年からということになります。新生した日本甲虫学会の活力ある発展のために、皆様方の厚いご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

東京・大阪・名古屋の3つの例会に参加して

新しい甲虫学会が発足し、東京・大阪・名古屋の3例会体制が発足しました。

1年間に東京例会と大阪例会が各3回、名古屋例会が2回開催されるので、新甲虫学会においては年に8回も例会が開催されることになり、採集例会まで含めれば年9回例会が開催されますので、お金と時間がある人であるならば最高9回楽しむことも可能となりました。大会も含めると10回も行事が開催されるということで、2つの学会が合併したことのわかりやすいメリットであると言えるでしょう。

筆者は昨年12月の東京大会・大阪大会に続き、2月の名古屋大会に参加して、それぞれの例会にそれぞれらしい特徴があって、あたかも三色のカラーになっていることを体感しました。地域ごとの個性が生かされた3例会への参加を通じて、日本唯一の甲虫学会が実現したということをしみじみ実感することができました。

自分の地元以外の例会にも、たまには参加してみる楽しみを他の会員の方々にお勧めするために、私が感じたそれぞれの例会の概要と魅力を紹介し、3例会制覇に挑戦される方が、今後どんどん現れることにつながればと考えております。

東京例会

3月、9月、12月の年3回開催され、12月は終了後、大久保の中華料理店で忘年会が開催されます。昨年までは、3月と12月は第一土曜日に科学博物館で、9月は第一日曜日に下北沢のタウンホールで開催されていて、第一週なので覚えやすいのが特徴でした。残念ながら科学博物館のつくば移転により、新宿の科学博物館での開催は2011年の3月例会が最後となります。東京例会の名物は隔年程度に行われる“蘇虫会”であり、標本箱やタトウで眠っていた虫をリデュースするとともに、もらった人はその標本を有効利用することでリデュースできるという、最近はやりの2R企画であるともいえます。パソコンの使い方など、初心者向けの教育講座に近い企画が行われたこともあります。

大阪例会

3月、10月、12月の中・下旬に、大阪市立自然史博物館で開催されます。毎回終了後に懇親会があり、12月は忘年会となります。

大阪例会の良さは同好会の雰囲気や温存されているところにあります。午前中に開催される同定会も3例会の中でもっとも充実しており、同定してもらいたい人にとっては貴重な場となっています。私自身もコムシやハネカクシ、ゴミダマ、ゴミムシ、ナガクチコムシなどを同定していただいています。同定会の時間を有効に使うために、事前に送って見てもらい、当日は標本の回収だけにすれば多くのファミリーを同定してもらえます。懇親会は阿倍野のピアホールで行われ、駅から近く料金も手ごろです。

名古屋例会

今年から年2回開催になりました。東京・大阪例会と重ならないように2月と8月に開催されますので、3例会制覇を目指される方にはうれしい配慮となっています。会場は交通がやや不便ですが、設備は最新で、明るくクリーンな雰囲気や広々とした会場であり、全国からの参加者が来ても収容可能でしょう。

名古屋例会の特徴は、講演が3～4件あることで、メインピックス1つを基本とする東京・大阪例会にはない特徴です。ハーフアンドハーフやクォーターのピザのようにいろいろな味を楽しめます。1件の時間が短いので集中して聴けますが、講演者を見つける事務局は大変だと思います。午前中は同定会兼歓談会になっており、そうそうたるゾウムシさんに同定してもらえます。

顕微鏡が1つなので、それを取り巻く人々が、同定中のムシに関する1つの共通話題に集中して参加でき勉強になります。同定会での共通話題、全体に歓談の時間が多いこと、講演が複数あることなどが名古屋例会であり、多くのファミリーに興味を持っている筆者のような人間にとっては、大変勉強になる例会だという印象を持ちました。

行事開催通知について

いままでは、「甲虫ニュース」や「ねじればね」に同封されていた行事の開催通知は今後、主に本誌の記事として紹介されることとなります。ホームページにも掲載される予定です。開催案内の記事は、1行事につき一度の掲載なので見逃さないように注意してください。本誌は年4回の発行で、予定では3月、6月、9月、12月に発送されることになっています。

例会に関する問い合わせ先

今年度の例会行事の担当者は以下のようになっています。不明の点は、各担当者に直接お問い合わせください。

- 採集例会担当 大木 裕
Tel / Fax : 045-912-0584 E-mail : bigtree@kf7.so-net.ne.jp
- 東京例会担当 高橋和弘
Tel : 0463-36-9361 E-mail : kazu5@mg.scn-net.ne.jp
- 大阪例会担当 安井通宏
Tel/Fax : 06-6624-1084 E-mail : yasuumichihiromy@ab.auone-net.jp
- 名古屋例会担当 生川展行
Tel : 059-374-1054 E-mail : tritoma@mecha.ne.jp

(〒 225-0015 横浜市青葉区荏田北 2-17-13 大木 裕)